

学習ポイント 1

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

読みが同じでも、文脈によって選ぶ漢字は変わる。意味の区別、誤用の訂正、理由の説明まで練習する。中学3年生を主な対象とした総復習教材であり、全国共通の「中3で新しく習う漢字一覧」ではない。問題文はすべて本教材のために作成した。

目標 同じ読みの語を、前後の文脈から書き分ける。／漢字を選んだ理由を、具体的な意味に結び付けて説明する。／辞書が認める表記の幅にも注意して、文中で適切に用いる。

1 音から決めず、文の働きを読む

同じ音の語でも、何を指すかによって漢字は変わる。同音異義語は読みが同じで意味が異なる語。同訓異字は同じ訓をもつ異なる漢字をいう。まず「だれが・何を・どうする」をつかみ、前後の説明から意味を短く言い換える。音だけを聞いて覚えた字を当てはめない。

例1 記録の誤字を直す作業を「校正」と呼ぶ。文章の組立てを考えるのは「構成」である。

例2 展示に興味をもつのは「関心」、説明の見事さに心を動かされるのは「感心」である。

例3 輸入品の量を制限するなら「規制」、休暇にふるさとへ戻るなら「帰省」である。

2 「はかる」は目的と対象で選ぶ

時間なら「計る」、距離や温度なら「測る」、重さやかさなら「量る」が代表的な使い分け。計画して実現を目指す「図る」、意見を求めて相談する「諮る」、悪事をたくらむ「謀る」も区別する。この整理を、あらゆる文に例外なく当てはまる機械的な規則とは考えない。

例1 発表を通して読むのに何分かかかるか、時計で計った。

例2 歩道の幅を測ってから、荷物の重さを量った。

例3 館長は新しい展示方針を委員会に諮り、利用者の増加を図った。

学習ポイント 2

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

3 「おさめる」は到達する状態を見る

中へ入れる・成果を得る場合は「収める」、決められた先へ差し出す場合は「納める」、学問や技術を身につける場合は「修める」、国などを統治したり混乱をはずめたりする場合は「治める」が目安。直前の名詞だけでなく、何がどうなる場面かを説明すると選びやすい。

例1 収集した資料を分類し、資料庫に収めた。

例2 工房は約束の日に注文の机を納めた。

例3 政治の学問を修めた人物が、のちにその地方を治めた。

4 「たいしょう」を三つの関係で整理する

働きかけや関心が向かう相手・物は「対象」。二つを照らし合わせたり、違いを際立たせたりするのは「対照」。点や線を基準として形が対応するのは「対称」。調べる相手、比べる関係、図形の対応という三つの観点を分けて考えよう。

例1 水辺の生物を観察の対象にした。

例2 古い地図と現在の地図を対照すると、海岸線の変化が分かる。

例3 折り目を軸に左右が重なる模様は、線対称になっている。

学習ポイント 3

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

5 「ほしょう」は何を支えるかで判断する

確かであると責任をもって請け合うのは「保証」。権利や安全などを守るのは「保障」。生じた損害や損失を埋め合わせるのは「補償」。とくに「安心させる」という大まかな意味だけで選ぶと混同しやすい。確かさ・権利・損失のどれが中心なのかを読む。

例1 販売店は、点検済みの商品の品質を保証した。

例2 学校は、だれもが安心して学べる機会の保障を大切にしている。

例3 運送中に壊れた展示品の損失を補償することになった。

6 意味の近い語は条件まで確認する

「追求」は理想や利益などを追い求めること、「追究」は真理などを調べて明らかにすること、「追及」は責任などを追って問いただすことに使う。ただし「追求」は意味が広く、他の二語の代わりにも使われる。問題では、意味を特に区別する条件や選択肢を確認し、説明では文中の根拠を示す。

例1 道具の使いやすさを追求して、持ち手の形を改めた。

例2 岩石ができた仕組みを追究するため、成分を調べた。

例3 記者は報告の食い違いを示し、責任者を追及した。

使い方と参考資料

本教材の対象と採点について

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順で取り組みなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

読み・語彙は小学校～中学校の既習事項を広く復習し、書き取りには高校受験対策の語も含めます。「中3」は利用の目安であり、各語が全国共通の中3新出漢字という意味ではありません。

書く欄は1マス9mm、罫線は1行10mmです。字数指定がない場合、余ったマスは空けて構いません。字数指定のあるマス目では、句読点も1マスに1字ずつ書きなさい。

本教材では、学校での学習を想定した標準的な読み・表記を練習します。辞書にある別読・異表記をすべて許容解とするものではありません。送り仮名の許容形や記述の言い換えは、解答解説の基準に従います。手書きの字形は、同じ漢字と判断できるかを確認してください。

設問・例文は、本教材のために作成したオリジナルです。出題頻度の統計や特定地域の入試傾向を示す教材ではありません。参考資料の例文・設問は転載していません。共通する語句は、別の文脈や出題形式で繰り返し確認する総復習として配置しています。

1 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』

国語（冊子29～40ページ）の漢字・語彙の学習範囲を確認。独自の総復習・受験対策教材として構成し、出題頻度の根拠には用いていない。

2 文化審議会『「異字同訓」の漢字の使い分け例』

同訓字の使い分けと、用例を絶対的規則としない考え方を確認。

3 漢字ペディア「はかる」

計・測・量・図・謀・諮の意味を確認。

4 漢字ペディア「おさめる」

収・納・修・治の意味を確認。

5 日本漢字能力検定協会「対象・対称・対照」

三語の使い分けのみを参照。問題文は本教材独自。

参考資料 続き

語義と学習範囲の確認

6 漢字ペディア「保証」

確かさを請け合う意味を確認。

7 漢字ペディア「保障」

権利などを守る意味を確認。

8 漢字ペディア「補償」

損失を埋め合わせる意味を確認。

9 大修館書店・漢字文化資料館「追求・追及・追究・追給」

「追求」に意味の広がりがあることを確認し、設問条件に反映。

10 漢字ペディア「うつす・うつる」

写・映・移の使い分けを確認。

11 漢字ペディア「あやまつ・あやまる」

誤る・謝るの意味を確認。

12 漢字ペディア「つとめる」

勤・務・努の使い分けを確認。

資料確認日 2026年10月8日。資料名を選ぶと参照ページが開きます。